



【先週 4月7日～4月13日の外食の出来事】

■ロイヤルホールディングス、プラスチック製ストローの提供を順次廃止

ロイヤルホールディングスは、世界的な問題となっているプラスチックごみの廃棄による海洋汚染への取り組みとして、2020年までに直営全店において使い捨てのプラスチック製ストローの提供を原則中止すると発表した。

■壺番屋、2019年2月期 通期の連結業績 増収減益

壺番屋の2019年2月期 通期の連結業績は売上高502億1400万円(対前年同期比1.5%増)、経常利益46億5900万円(同4.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益27億8900万円(同12.5%減)であった。

■鳥貴族の値下げプロモーション、客数回復基調に。

鳥貴族の3月の月次実績は既存店では、客数1.1%減、客単価1.6%減で、売上高2.7%減となった。15ヶ月連続で前年マイナス。既存店客数は2018年9月に15.3%減だったが、19年3月は1.1%減にまで持ち直してきた。

■屋台屋博多劇場、6ヶ月連続で客数伸び。安い居酒屋として浸透。

3月の既存店売上高は客数5%増、売上高5.1%増。昨年10月以降、客数が伸び、売上高が前年同月を超え続けている。値下げ当初は客数に変化がなかったが、安価な博多料理居酒屋としての認知がじわじわ広がっている。

■サイゼリヤの19年8月期、一転最終減益 純利益9%減、禁煙店舗の増加で

従来予想を13億円下回り一転、最終減益となる。禁煙の店舗を増やしたことで既存店の売上高が想定より落ち込む。不採算店舗で減損損失を2月期に9億円を計上し、「下期も10億円の追加計上が見込まれる」。

■プレナスの19年2月期、最終損益29億円の赤字 原価高響く

プレナスの2019年2月期の連結決算は、最終損益が29億円の赤字となった。売上高は前期比5.6%増の1539億円、経常利益は前期比97.3%減の1億4300万円、営業損益は5億100万円の赤字だった。

■APカンパニー、既存店売上高は4年で24%も減少。どこまで耐える。

株式会社エー・ピーカンパニーの2019年3月通期の既存店売上高の前年比が92.9%。前年割れは2014年5月から始まり、18年3月期は92.6%。2015年3月期から比べると、19年3月期は75.8%にまで下がった。

■デリバリー市場18年は4千億円、飲食店売上の3%に拡大。どこまで成長するのか。

外食・中食市場情報サービスのエヌピーディー・ジャパンが、昨年におけるデリバリー市場規模は4,084億円で前年比+5.9%成長と分析。10月の消費税増税で、軽減税率8%の適用となるデリバリーはさらに伸びると予想。

■3月の街角景気、歓送迎会が盛り上がり

街角景気は地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々から聞いた景気判断。2019年3月は、3ヶ月前と比較しての景気の現状判断は飲食関連で、2月より2.8ポイント悪化し、42.4ポイントに。